

山武市市民提案型交流のまちづくり推進事業審査会
令和4年度 事業成果（事業評価）報告書

令和4年度山武市市民提案型まちづくり推進事業審査会の審査結果を次のとおり報告いたします。

記

- 1 審査委員 12名
- 2 審査方法 実績報告書による書類審査及び成果報告会による発表
- 3 審査団体 チャレンジ部門4団体
- 4 審査講評 各事業実施団体からの成果報告については、概ね事業目的に沿った適正な活動であったと認められます。
各団体の事業評価内容は、別紙のとおりです。

<チャレンジ部門>

■ 美杉野4丁目自治会（防災・共助体制の確立と美化活動の継続（事業確立））

美杉野4丁目を暮らしやすい人の集う場所にしたいという目的に向かい、着実に実績をあげています。フットワーク良く次々にアイデアを練り出し、楽しみながら事業を進めている様子がうかがえます。同時に事業性も高めて将来の自立がみえる展開となっています。LINE WORKsを活用したコミュニケーションは、周知を図ることでよりきめ細かな連絡体制ができ、更なる活性化が期待できます。今後もステップアップして、意見や情報、事業の進捗状況などがタイムリーに発信できるとよいと考えます。

事業予算についても詳細に記録整理されています。自主財源が確保され、事業を自立、継続させていく仕組みづくりが考えられており、継続性のある市民活動のモデルケースだと言えます。

共同購入など日常生活の局面でも、地域ぐるみの活動をされており、この活動が住民生活に浸透し根を下ろしつつある様子が伺えます。充実した共助体制に向けて更なる発展を望みます。

■ 本須賀第二区（しおさいプロジェクト）

住民の地域への参加意欲を高め、地域の活性化につながる大きな目標を持った活動であると評価します。目的としている「持続可能な地域を目指す」入り口として、住民の参加を促すために用意された各種活動のメニューがしおさいプロジェクトの継続には大切な魅力になっています。

一方で、異世代間交流が弱く、同年代での活動に限られている様子が見受けられます。各種事業やイベントに関心を持たない人たち、漏れてしまう人たちをすくいあげていく必要を感じます。若い人が楽しめるイベントや、女性の参加が少ないとのことなので、今までにない新しい取り組み（手芸や絵手紙など）も検討されてはいかがでしょうか。

事業費の面では補助金への依存が強い中、将来は参加費・寄付金などの検討も必要かもしれません。

難しい課題に対して、健康や環境美化という切り口を見つけ、始められたこの活動を大切に育てていただきたいと思います。高齢化が進み住民の孤立化が進むなか、地域課題を掘り起こしながら事業を継続し住民間の交流を増やして行けることを願います。時間のかかる活動だと思われるので、粘り強い活動の継続を期待しています。

■ 特定非営利活動法人リンク（誰もが住みやすい地域づくり 2022～ひきこもり当事者及び家族支援活動）～

誰もが住みやすい地域づくりのために、とてもデリケートな課題に取り組まれていることは高く評価しています。専門性の高い事業分野であり、講師の方々もプロフェッショナルな方々を呼んで実施しており、質の高さを感じます。成果として報告されている「この活動が市民にとって引きこもりの問題を「我が事」としてとらえる機会になったと思われる」という部分から地道な活動が効果を表してきている実感があります。

関係者への積極的な働きかけが必要だと思われるので、行政や他団体との連携も築いて行って下さい。PRの方法も対象者への勧誘の方法もさらに地域の協力が得られるようになるとよいと思います。

事業費の面では補助金への依存が強い状況ですが、制度上の課題もありますので、別途行政との協働事業を模索していくことも一案です。更に充実した成果を上げるためにも、より良い支援の形が見つかることを願っています。

■ 山武市防災かるた作成実行委員会（山武市防災かるた作成・普及活動）

「防災について考える」ことは大事で必要なことである一方、なかなか腰が上がりませんが、「かるた」で学べる、知れるというのは年齢問わず手軽に楽しめてとても良い取り組みです。消防士としての経験が団体活動に活かされ、実体験が反映されたかるたになっていると評価します。小学校・学童での実践の広がりや防災意識の高まりに大いに役立っています。子供たちは楽しみながら、大切なことをかるたから学び、ゴールドクラブの方々や人生の先輩として自身の命を守り、地域住民の身近なところでの防災意識向上に役立つに違いありません。

一方で、支出については、かるた印刷が中心となっていますが、今後の増刷、普及を考えると収益方法が問われます。かるたの販売、普及に努めていただき、様々な現場での活用と防災意識の定着にむけた取り組みを考えてください。一過性の活動にならないことが望まれます。

城西国際大学看護学部の学生と連携しての事業展開となっており、外部連携による地域課題の深掘りができたことを評価いたします。これからも若い力の協力をもとに、防災意識の向上、かるたの普及を続けてください。